

米国 リンゴの供給が需要を上回り輸出が増加

FreshPlaza 2024年1月17日

ハニーベアマーケティング社のドン・ローパー氏は、「米国では、リンゴがこれまでにない豊作だ」と言う(以下「」は同氏の発言)。最大の生産州であるワシントン州では、生産量が40%近く増加し、総出荷量は1億4千万箱近くに達している。中西部と北東部の産地では平年並みの生産量となっており、全米の合計で史上最大の生産量となっている。

農場出荷価格は下落

全米の生産量が記録的に多い結果として、平均出荷価格はすべての生産州で、品種、サイズ、等級に応じて12~25%下がっている。「一部の品種の価格には大きな下押し圧力があり、その結果、取引先から見た商品コストが下がっている。それに伴い販売量は増加しているが、今年の総販売額を昨年と比較すると全体的に減少傾向にある。」

生育条件が良好であったため、生産量が多いことと同時に、果実の品質も高い。「全体として、これは小売業者にとって有益な状況である。小売業者は、仕入れコストが最も低い販売事業に集中できる。」需要は昨年より増えているが、供給の増加はそれを上回っている。「需要よりも供給の方が多い。弊社は販売業者として、消費者の需要を喚起する積極的な小売プロモーションを引き続き行うため、主要な小売パートナーと協力している。しかし、あらゆる風味の様々なタイプのリンゴが多様な包装形態で提供されている中で、需要をこれ以上どこまで伸ばせるだろうか。私見では、リンゴの消費量は最大限に膨らんでいる。供給量が多すぎるのだ。」収穫量が非常に豊富な今年は、今から夏の終わりまで、販促活動のチャンスが多くあると見込まれている。

輸出の増加

供給が需要を上回っているため、出荷業者は北米以外での販売を含め、さまざまな販売方法を模索している。今シーズンはアジアへの出荷量が大幅に増加している。台湾ではふじの需要が旺盛で、ベトナムはガラの輸入量が大幅に増加した。「旧正月の影響で現状では少し減速しているが、旧正月明け以降には販売が再び持ち直すと期待している。」アジアが最大の輸出先である一方で、南米からの需要も増加している。全体として、ワシントン州からの輸出量は昨シーズンより95%多い。

今後の展望

今シーズンは、リンゴ生産者らにとって非常に困難な時である。リンゴの価格が低下しており、販売価格が生産費をカバーできないリスクがある。生産者らは、栽培コストに加えて、果実の収穫、梱包、販売の費用を支払う必要がある。多くの生産者は今年の費用を賄うことができず、同氏は生産量がしばらくの間高止まりすることを恐れている。「畑作物と違って、リンゴは永年性作物である。簡単に取り除いて別の作物に切り替えるわけにはいかない。これは一種の周期的な動きであり、生産量が調整されるまでに3年かかるかもしれない。」さらに現在、今後数年で成園化してくる多収性品種の若い園地が多くある。

執筆者: マリーケ・ヘムズ